

公的施設等運営評価調書
(令和 6 年度 総合 評価)

様式1

運営評価対象年度	令和 6 年度
状況調査基準年月日	令和7年4月1日

施設名	県立淡路夢舞台国際会議場	施設所管部課室	企業庁 総務課 課		
		記入責任者職氏名 (担当者職氏名)	主幹(経営改革担当) 村上 修司 (主任 三好 建太郎)	内線	75870 (75871)

1 施設概要

設置目的	花と緑と海の景観が広がる美しい環境の下で、県民及び国内外の人々の多彩な交流を支援するとともに、勤労者をはじめ広く県民の文化活動及びレクリエーション活動を促進する。								
設置根拠	条例名称 兵庫県立淡路夢舞台国際会議場及び淡路夢舞台公苑の設置及び管理に関する条例 （平成11年10月8日 条例第 41 号）								
所在地等	所在地	兵庫県淡路市夢舞台1番地			設置年月日 平成 12 年 3 月 9 日 (R 7 .4現在経過年数 26 年)				
	電話番号	0799-74-1020			直近の大規模改修年月 令和 2 年 12 月 (R 7 .4現在経過年数 5 年)				
	HP・電子メール	https://www.yumebutai.org/							
敷地面積	敷地面積	33544.75 m ²	所有者別 内訳		m ²	県	33,544.75 m ²		
					m ²	その他	m ²		
施設内容	延床面積 13,990.00 m ²								
	【各施設名とその概要】 メインホール、イベントホール、アンフィシアター、レセプションホール(2室)、中小会議室(6室)、討議室(8室)、特別会議室(2室)、控室(5室)、茶室(2室) 計28室								
利用時間	9時～21時								
休館日	12月29日～1月3日(6日間)								
利用料金	利用料金制度	導入済	料金体系	別紙記載のとおり					
	名称								
整備費	10,965,004 千円								
	(内訳)	当初 整備	施設建築費	9,803,115 千円	財源内訳				
			用地費	587,208 千円					
			備品費等	574,681 千円					
			その他	千円					
	大規模 改修		改修費	千円	財源内訳				
			備品費等	千円					
			その他	千円					
			施設拡充等	千円					
	施設 拡充		備品費等	千円	財源内訳				
			その他	千円					
			国庫	千円					起債
特定			千円	一般					千円
業務内容	(1) 国際会議その他の会議、講演会、研修会等のために施設を県民の利用に供すること。 (2) 文化交流、経済交流等のための国際会議その他の会議、講演会、研修会等を開催すること。 (3) 文化活動及びレクリエーション活動のために施設を県民の利用に供すること。 (4) 演劇、音楽、舞踊等に関する鑑賞会を開催すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、国際会議場の目的を達成するために必要な業務								

2 運営体制

運営形態	指定管理者制度							
	指定管理者 指定内容	指定管理者名	株式会社 夢舞台			指定の方法	特定の者を指定する施設	
		所在地	県内所在地	兵庫県淡路市夢舞台1番地			特定の者を 指定する理由	隣接施設との一体的な管理運営や近 傍市町立施設との密接な連携により 効果的な管理運営が図られる施設
			主たる事務所					
		指定管理期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日			履行保証保険の付保		
		導入(予定)時期	平成18年4月1日 ～					
		公募施設の場合⇒	直近の公募年度					

3 運営費の状況

(1) 収支状況

(単位: 千円)

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
支 出		211,552	211,862	233,555	211,910	208,838
人件費		73,007	78,483	79,451	78,213	79,400
維持管理費		131,033	122,455	141,432	122,404	116,775
事業運営費		7,512	10,925	12,672	11,293	12,663
その他						
収 入(財源内訳)		211,552	211,862	233,555	211,909	208,838
県 費	一般財源	146,221	123,375	140,220	122,176	112,332
	使用料収入	14	14	14	38	135
	他(国庫・CSR等)	0	0	0	0	0
	計	146,235	123,389	140,234	122,214	112,467
指定管理者 等	利用料金	58,587	74,882	77,040	74,181	85,905
	自主事業	6,730	13,591	16,281	15,514	10,466
	自主財源	0	0	0	0	0
	計	65,317	88,473	93,321	89,695	96,371

※ 令和7年度は当初予算、その他は決算。ただし県職員人件費については、一人あたり次の額で積算。

〔R3年度:8,408千円、4年度:8,331千円、5年度:8,412千円、6年度:8,890千円、7年度:8,932千円〕

4 利用状況

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
利用者数	7,278 人	24,687 人	17,345 人	16,539 人	20,004 人
対 2 年度比	100.0	339.2	238.3	227.2	274.9

【主な施設の利用状況】

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
メインホール					
利用者数	人	人	人	人	人
稼働率	7 %	13 %	22 %	18 %	19 %
地元利用率	%	%	%	%	%
レセプションホールB					
利用者数	人	人	人	人	人
稼働率	10 %	19 %	24 %	22 %	29 %
地元利用率	%	%	%	%	%

5 類似施設の状況

施設名称	所在地	設置者	設置年	施設概要
該当なし			年	
			年	
			年	
			年	

6 運営評価指標

	指 標 名	目 標 [考え方]	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	達成/未達成
設置目的に関する指標	総利用者数	25,000 目標利用者数	17,345 (12.2 千円)	16,539 (14.1 千円)	20,004 (10.6 千円)	未達成
サービス向上に関する指標	会議等開催件数	350 目標開催件数	347 件	351 件	397 件	達成
効率的な運営に関する指標	メインホール稼働率	40 開業当初基準	22 %	18 %	19 %	未達成
その他	利用料金収入	90,000 目標収入	74,882 千円	77,040千円	74,181 千円	未達成

※ () 書きは、1単位当たりのコスト(算定式:1単位当たりコスト＝事業費÷指標値)

7 運営評価

必要性	淡路夢舞台は、関西国際空港整備に伴う広大な土砂採取跡地に豊かな自然を再生し、淡路地域の振興と大阪湾ベイエリアにおける交流拠点をめざす「淡路島国際公園都市構想」の中核施設として整備され、国内外の交流の舞台となる国際会議場などの公の施設と、その迎賓機能として収益事業のホテルで構成された複合施設群である。同会議場は、都市型の大規模施設と一線を画した、豊かな自然と調和した静かな会議環境を提供するリゾート＆コンファレンスセンターであり、県民及び国内外の人々の多彩な交流を促進するとともに、県民の文化活動及びレクリエーション活動を推進することを目的としている。
有効性	JNTO（国際観光振興機構）の統計によると、本会議場の国際会議開催件数は、会場別ランキング（大学を除く）で10位（同率）に入っている。 また、同統計によると、会議の外国人比率（参加者総数に対する外国人参加者数）は、第2位の41.6%（大学を含めると4位）となっており、十分な有効性がある。
効率性	国際会議場などの公の施設と、ホテルなどの収益事業とが一体となった夢舞台施設群を、一体的に管理運営していくことで、リゾート立地の特性を活かした滞在型会議場として、国際会議やMICE誘致などによる活性化を図っており、効果的・効率的な運営を行っている。
民間・市町との役割分担	公の施設として国際会議場を設置することは、民間の営利施設よりも安価で質の良い会議空間を提供することによって、地域の活性化を図ることであり、民間との棲み分けは出来ている。また、観光需要など施設利用者の付加的な需要を満たすことは、施設利用者のリピーター化を促すとともに地域経済にも好影響を与えるため、一層の連携が必要である。
受益と負担の適正化	利用料金の設定にあたっては、先行して稼働している神戸・大阪・京都の近隣国際会議施設との競争に伍するため、同等レベルに設定する必要がある。 そのため、管理運営費のスリム化を図ることによって、受益と負担の適正化に努めていく。

8 指定管理者制度導入の効果（※ 直営施設については、導入しない理由）

導入効果等	多種多様なニーズに応えられる環境を整備していることや、滞在型の国際会議に適した会議場として活用できることから、利用者のサービス向上が図られている。
-------	---

9 施設の見直し方針

見直し方針	淡路夢舞台がこれまで果たしてきた公的な役割や、現代建築としての文化的価値を踏まえながら、今後の新たな展開方策とそれにふさわしい経営のあり方について検討を進めていく。
見直しの理由・考え方	ポスト万博、神戸空港国際化等、今後の大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、世界的観光・交流拠点として淡路夢舞台をグレードアップすることが求められている。

10 外部評価について

運営主体である株式会社夢舞台は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、会計監査人たる監査法人からの外部監査を受けていることから、別途協議会等を行っていない。

※ 評価の内容を記載 行っていない場合はその理由を記載